

令和3年度 女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動内容
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性地域社会参画部門(個人)	群馬県	たかきし 高崎市	さいとう きぬよ 齋藤 絹代	平成元年、義父母から経営移譲を受け、脱サラした夫とともに後継者として就農。平成8年から、学校への野菜の提供や、近隣小学校の社会科見学の受け入れなど、食農教育活動を実施。平成10年に直売所「柴崎農園」を開設し、現在はECサイトも活用して販売。消費者が求める農産物を提供したいとの思いは強く、確かな品質はリピーターの獲得に繋がっている。地域の「食」を支え、地域受け入れられる農園づくりに尽力。農業委員、食育推進会議、県農政審議会や観光審議会など、様々な分野の委員を務め、積極的に意見を発信。女性の地域社会参画の推進に大きな役割を果たしてきた。
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性地域社会参画部門(組織)	宮城県	せんだいし 仙台市	みやぎアグリレディス21	平成14年3月に設立。当初から、女性の農業委員の登用促進を重点活動に据え、活動。改正農業委員会法施行後2回目の改選(令和元年度～令和3年)に際し、農業委員会を設置する県内全34の市町村長、市町村議会議員に対して、(一社)宮城県農業会議と連名による要請活動を行い、あわせて、市町村農業委員会会長に対しても要請活動と、市町村長、市町村議会議員に対する要請への同席を求め懇談を行ってきた。令和3年7月に、本県では改選が全て終了し、この時点での会員数は103名で、女性の農業委員の登用率は18.8%。県内全ての市町村農業委員会に女性の農業委員が登用され、第5次男女共同参画基本計画の成果目標である、女性農業委員のいない農業委員会をゼロにする目標を達成した。
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性起業・新規事業開拓部門	熊本県	みなみおくにまち 南小国町	あない りな 穴井 里奈	2011年、結婚を機に移住。小国杉の歴史や魅力から、小国杉をもっと広めたいと、2016年、株式会社Forequeを設立。端材を使った雑貨や、生活用品の企画・製作を始める。2020年に、県の木育インストラクターの資格を取得、町内の保育園や学校で、体験イベントを開催。また、エッセンシャルオイル事業では、放置されていた枝葉を林業家から買い取り、抽出後の残渣物も、土づくりや熱エネルギーとして再利用、廃棄物ゼロに努める。地元の中学校に、国内初となる「林業×プログラミング」をテーマにした部活動を提案、運営。2017年から、ライフスタイルブランドFILを立ち上げ、木製品やアロマ製品を企画。木材の可能性や魅力を国内外に発信、地域の林業、観光業の活性化にもつながっている。
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性活躍経営体部門	大分県	おおいたし 大分市	かぶしきがしいや、むらかみのうえん 株式会社村上農園	昭和60年、現代表の父がニラ生産を専業で開始、平成23年4月に法人を設立。令和3年に枝里氏が代表取締役に就任。出荷・調整作業を担う若手の女性パート従業員確保のため、子育て中の女性が働きやすいように労働条件の改善と環境整備を行い、雇用の安定化が実現。経営面積も順調に規模拡大している。また、女性従業員自らが創意工夫で仕事を行える仕組みにより、従業員のやりがい向上、自ら考えて働く従業員を育成することができている。新たな生産技術の確立や機械化による業務の効率化など、産地へのけん引役としても地域へ貢献しており、地域の荒廃農地の無償整地、福祉施設への調整作業の委託や障がい者雇用等の農福連携にも積極的に取り組んでいる。
最優秀賞	農林水産大臣賞	若手女性チャレンジ部門	福岡県	くるとめし 久留米市	うさかわ みな 宇佐川 美奈	花農家の義父から勧められ、平成24年にJAのリーフレタス部会に入り、60aから栽培を開始、新規就農者となった。面積を順調に拡大し、平成27年には夫も就農。平成28年から、パートの雇用も開始。出勤人数に合わせて仕事内容を決める等、子育て中の従業員が働きやすい環境づくりに取り組む。一方通年雇用に向けた作業環境改善のために、キクラゲ栽培を開始。パート2名が正規職員になり、外国人技能実習生の受け入れも行うなど、リーフレタスの栽培面積は10haまで増加。平成30年、久留米市の若手女性農業者グループ「美農女くるめ」を結成、同世代の農業者との交流、地元の子供との野菜教室など食農教育活動にも取り組んでいる。

令和3年度 女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動内容
優秀賞	経営局長賞	女性地域社会参画部門 (個人)	岡山県	おかやまし 岡山市	いたの まりえ 板野 真理枝	昭和57年、非農家からメロン農家に嫁ぎ、就農。燃油高騰を受け、平成15年に冬季のメロン栽培に替えブレウラムを導入。良品安定生産技術の確立と部会員の技術向上に尽力し、作付面積全国3位(令和2年)のブレ産地確立の一翼を担ってきた。花き部会役員に就任してからは、東京市場や食育花育を通じた地元への産地PR、新規栽培者の巡回指導など、産地振興に取り組む。ミセスコスモスや岡山市女性農業士など女性農業者の会で得た知識や経験を活かし、自らは家族経営協定を締結して経営参画を実践するとともに、女性農業者の積極的な地域社会参画をアドバイスしてきた。平成30年4月から岡山県農業士に就任、広く農業後継者の育成活動等にも注力している。
優秀賞	経営局長賞	女性地域社会参画部門 (組織)	大分県	たけたし 竹田市	ゆうげんかいしゃ 有限会社 エム・ナイン	トマト農家の女性が規格外品を使用した加工品の製造販売を目的に起業したグループ。平成14年法人化。開発したケチャップが高い評価を受けたことから、原料調達の安定化のため、JAと連携して規格外品を使用。生産農家の所得向上や、後継者や新規就農者が育つなど、高齢化が進む中で産地面積を維持、出荷量、販売額も増加傾向にある。高い品質の加工品は、トマト産地のブランドアピールの一役を担う。また、消費者との交流、地元小中学生や農業大学生の視察・研修の受け入れや、トマト料理の講師派遣等も行っており、生産農家が6次産業化に取り組み、成功したモデル的起業グループであり、農山漁村女性の積極的な起業・経営参画を後押しするリーダー的存在。
優秀賞	経営局長賞	女性起業・新規事業開拓部門	千葉県	いちほらし 市原市	やまざき みさえ 山崎 美佐江	夫の脱サラによる就農を機に本格的に農業に携わり、「保存料や着色料などの食品添加物を使わない商品づくり」をモットーとした農業経営を展開、規模拡大を図ってきた。地域産物を活用した商品開発や体験交流部門の立ち上げ、農家レストラン、直売所の開設、後継者のイチゴ栽培と次々に事業を創設し、里山ファームのファンづくりや農業の魅力の理解醸成に努め、地域農業の活性化に大きく貢献している。夫婦で県指導農業士に認証され、農業委員、県の男女共同参画懇話会委員としても活躍。新型コロナウイルスや自然災害のリスクの中でも、地域密着型の直売所を建設、地元生産者や新規参入者の販路を確保するなど地域農業を支えるリーダーとして活躍の場を広げている。
優秀賞	経営局長賞	女性活躍経営体部門	茨城県	かわちまち 河内町	株式会社ゲブラナガトヨ	鉢花やポット苗の育種・生産・販売を行う。年間売上は、161,006千円(過去5年間の平均)。花の育種や選抜に力を入れ、常に消費者目線に立った商品開発に努める。通年で安定した商品供給をするため、2006年から長野県に支店を設け、気候に合わせた花の生産に取り組む。経営計画等に現場の従業員等女性の意見が反映される体制を整えており、商品開発の段階から積極的に女性を参画させることで、女性好みの淡い色合いの花を生産。消費者や販売店から高い評価を得ている。女性従業員が活躍できる環境を整え、働きやすく、活躍しやすい体制作りに取り組んでいる。また、地元の農業経営士、女性農業士の視察の受け入れなど、地域の農業者の育成にも貢献している。
優秀賞	経営局長賞	若手女性 チャレンジ部門	岡山県	つやまし 津山市	すずき ひな 鈴木 妃奈	平成22年、いちご栽培で農外から新規参入。自らの経営の傍ら、(有)まほらの運営する農園の従業員としても活動。前社長の死去により、代表取締役に就任。果物狩り品目の拡大、6次化産品・加工品の開発、イベントの実施、カフェの開設等さまざまな事業に取り組み、農業振興拠点としての農園の発展に尽力。併せて女性従業員が働きやすい環境づくりを進める。また、若手女性組織「あぐり女史の会」に参画し、知識向上・地域活性化に向けた研修会や活動を行う(平成30年から3年間会長)。保育園から社会人まで幅広く農業体験の受入を行い、食農教育実践の場を提供。県の就農研修事業による研修生を受け入れ、新規就農者確保・育成も積極的に進め、農福連携の取組も行う。

令和3年度 女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動内容
優秀賞	林野庁 長官賞	女性地域社会参 画部門 (組織)	和歌山県		わかやまけん 和歌山県 りんぎょうけんきゅう 林業研究グループ れんらくきょうぎかい じよせいりんけんぶかい 連絡協議会女性林研部会	平成11年3月設立。地域で森林や林業をPRしたいと、平成15年度からヒノキ間伐材を使用したマグネットづくり体験指導を開始。和歌山の「木」の良さを広めている。平成21年度から小学校等での森林・林業教室を開始。平成26年度からは、高校生への授業も行う。座学の外、会員所有林での間伐体験や、経営者や従事者の話を聞くなど、将来の職業選択に活かしてもらおう機会となっている。平成27年度、紀の国わかやま国体において、森林・林業・木材に関する広報を関係団体に呼びかけ、展示の他、来場者に手作りのかんなりボンストラップを無償配布。女性ならではの視点や発想で、「木」や森林、山の魅力の発信に継続的に取り組んでいる。
優秀賞	水産庁 長官賞	若手女性 チャレンジ部門	鹿児島県	屋久島町	かわひがしまゆう 川東 蘭右	他業種で働きながら釣行モデルとして活動中、屋久島の魚に魅了され平成23年移住。その後、一本釣りの漁業者と結婚。島でも魚食離れが進んでいる状況を知り、平成26年から魚食普及活動を開始。平成30年11月から、地魚を使ったケータリングや弁当の販売、鮮魚販売仲介業務、魚食普及活動業務を受託する個人事業主として「屋久島いお結び」を開業。育児の傍ら、地元の祭りで鮮魚販売や地魚解体ショーを開催、小・中学生を対象とした地魚料理教室、レシピ開発など奮闘。平成28年水産庁長官から「お魚かたりべ」に任命される。魚離れが顕著な若い主婦、子育て層向けに「時短」、「手間なし」をキーワードにしたレシピブックを、県、市町、漁協とともに作成。令和3年8月、鹿児島県指導漁業士に任命された。
優良賞	全国漁業協 同組合連合 会長賞	女性地域社会 参画部門 (組織)	岩手県	ひろのちよう 洋野町	たねいちみなみぎょうきょうどうみあい 種市南漁業協同組合 しゆくのへ じよせいぶ 宿戸女性部	昭和34年結成。平成17年度から宿戸地区では、地元の小・中学生を対象の体験学習に取り組み、地域ぐるみで担い手育成を行っている。女性部は、主に中学生を対象に、漁獲→加工→販売までの一連の作業の体験学習で、収入につながる楽しさも知ってもらう等、工夫を凝らす。生徒の中から、これまでに5人が当地区の漁業者として活躍。また、JF種市南では、一家族に複数の人が正組合員資格を持つことを積極的に進めており、令和2年度及び令和3年度には若い女性3人が女性漁業者としてデビュー、正組合員となって活躍、女性漁業士も新たに2人誕生した。地区の担い手活動と女性部活動を調和させ、女性漁業者の収入確保と働きやすい環境づくりへの努力を漁協と共に取り組んでいる。
優良賞	全国農業協 同組合中央 会長賞	女性地域社会 参画部門 (個人)	岩手県	もりおかし 盛岡市	まつもと なおこ 松本 直子	非農家出身。昭和61年、果樹専業農家の長男と結婚、就農。新たな品目としてブルーベリーを導入後、女性農業者グループ「藍の会」を立ち上げ、産地シンポジウムを成功に導くなど、地域のブルーベリー振興に尽力。平成4年から地元保育園、小中学生の体験学習、高校生や農業大学校生の研修受入など、長年、食農教育に取り組む。また、農園カフェでは、地域農業の現状や農村風景を維持する取組など、広く情報を発信。自家農園を活用した地域交流イベント「りんご畑 de コンサート」は、平成11年から9回を数え農業や地域の魅力を再発見する機会となっている。地元企業との連携による当地商品の開発など、「盛岡りんご」のさらなる認知度向上にも尽力。
優良賞	農山漁村男 女共同参画 推進協議会 会長賞	女性地域社会 参画部門 (個人)	富山県	おやべし 小矢部市	でんご としこ 田悟 敏子	平成14年小矢部市で初めて家族経営協定を締結、夫との共同申請により、「認定農業者」に認定され、以降、家族経営協定が10戸で締結された。市初の女性の農業委員を務め、令和2年からは富山県女性農業委員の会会長を務める。郷土料理「にしの糍漬」を商品化、当該商品は、令和2年からふるさと納税制度の返礼品となる。平成19年から県の「とやま食の匠」、平成26年から「富山県食育リーダー」等を務め、食農教育や郷土料理の伝承に貢献。女子高校生と小矢部の食材を活かした「生キャラメル」の開発や、食にかかわる異業種グループ「メルきゅん女子」でりんごやかきもちなどを使った「農産物パフェ」の開発など、若い世代への地域農業・農産物のPR、活性化に貢献。

令和3年度 女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県名	所在地	個人・団体名	活動内容
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞	女性地域社会参画部門(組織)	愛媛県	うちこちょう 内子町	うちこ 内子アグリベンチャー21	平成13年2月に結成。町が農畜産物処理加工施設を直売所内に新たに整備した際、施設の運営と農産加工品の研究開発を行う主体として発足。メンバーは、直売所に出荷する生産者で、地元農産物を使った新しい農産加工品の開発と、製造販売、飲食店の経営等複合的なアグリビジネスを展開。安全、安心、健康をモットーに開発研究した商品は好評を得、特に、「もち麦うどん」、特産の柿の「柿ようかん」は人気商品として定着。町の新規作物「じゃばら」の加工食品の研究開発にも力を入れ、知名度アップに貢献。設立当時約890万円であった売上額は、令和2年約2370万円と成長。「勇気・やる気・元氣」を合言葉にした活動は、地域での女性の経済的自立や活性化に寄与している。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞	女性起業・新規事業開拓部門	群馬県	まえはしし 前橋市	やばた はるみ 矢端 晴美	非農家出身、昭和60年結婚を機に就農。昭和63年から日本語教師の仕事再開、農業と両立させている。平成5年に特別栽培米制度を利用した直接販売を契機に積極的に経営参画。平成15年に法人化し取締役就任、消費者交流・情報発信に取り組む。平成18年から通年雇用と経営安定を図るため、餅の製造販売部門を立ち上げ6次産業化に着手。100%自家製の餅米を使った餅は経営の一つの柱へと成長。平成24年に6次産業化認定事業者の認定を受けるとともに、市の農産物ブランド認定を取得。組織活動にも積極的に取り組み、役職を歴任し地域リーダーとして活躍。郷土料理の技術伝承、地産地消、体験学習や食育活動にも積極的に取り組み、農業の魅力発信、理解促進に貢献している。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞	若手女性チャレンジ部門	北海道	ひろおちょう 広尾町	すみくら まどか 角倉 円佳	酪農家に生まれる。大学卒業後2年間、カナダの牧場で実習し、女性による牧場マネジメントを体験。帰国後平成19年に株式会社マドリンを設立。搾乳頭数30頭で経営を開始、現在は、経産牛頭数約60頭、年間出荷乳量およそ680トンを生産。一人で経営を始めた際の閉塞感や情報収集の難しさなどの経験から、酪農女性が新たな情報を学び、仲間と情報交換できる場を主催。全国的なネットワーク活動にも取り組み、酪農女性の経営参画の推進や地域農業の活性化に努める。また、ラジオパーソナリティーとして、農業界だけではなく、地域や都市に向けて酪農の意義を伝える活動も行っている。広尾町の農政推進協議会の組織員、北海道農業士、食料・農業・農村政策審議会委員。